

只見高校の定員数と学級数の増について要望

只見高校の定員は原則40人ですが、希望状況に応じて定員数増が検討されます

縮小された定員数と保護者からの不安の声

県立只見高等学校（以下…只見高校）は、「県立高等学校改革前期実施計画（※）」に基づき、令和2年度より定員数が70人から40人に縮小となり、1学年2学級から1学年1学級となりました。

この様な中、来年卒業予定の地元生徒数は40人を超えており、山村教育留学生も例年10人程度を受入れて

いることから、「現在の定員数40人では、進路先に地元の只見高校を志望しても入学が難しいのではないか」との不安の声が保護者の方をはじめ、地域の皆さんから上がっていました。他にも、定員数・学級数の縮小により教職員数が減っていることで教育の質の低下が心配されています。

そこで、町と町教育委員会は、7月15日に、「只見高校の定員数と学級数の増について」の要望書を県教育委員会鈴木教育長に提出しました。



▲鈴木教育長に要望書を渡す渡部町長と渡部教育長



▲昨年度より1学年1学級となった只見高校

県教育委員会教育長の回答

定員数の増について

- 只見高校は、入学希望生徒が増えれば40人1クラスを固定するものではない
- 今後の進路希望調査で入学希望者が40人を超えた場合、状況を見極めた上で最終的に40人以上の入学という臨時的な措置をとることを検討する

学級数の増について

- それなりの年数で継続的に定員を大きく超えるような場合、2学級を検討する

町でも只見高校の振興対策として、希望による冬期間の寮生活受入れや町外へのスクールバス運行など、保護者の方の負担軽減や生徒がより良い学校生活を送れるような案を検討しています。県教委の回答を受けて町では、受験生を持つ町内外の保護者や学校関係者の皆様に、進路希望の状況に応じて只見高校定員増の可能性があることを正しく伝えるよう、県と力を合わせて広報活動を行ってまいります。

※「県立高等学校改革前期実施計画（2019～2023年度）」とは

少子化による小規模校の増加を主な理由に、1学年4～6学級を望ましい学習環境として、県内の県立高校を現在の96校から81校に再編するというものです。只見高校と南会津高校（南会津町界）もその見直し対象になっています。

只見高校は、「地理的条件や公共交通機関の状況等から、統合により近隣高校への通学が困難になる」「地元からの入学者割合が著しく高い」という理由で統合とはなりませんでしたが、定員数を1学年2学級（70人）から1学年1学級（40人）へ縮小されました。